

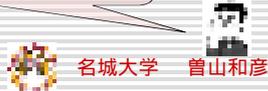
平成29年度第2回

村山地区放課後子ども総合プラン指導者研修会

気になるあの子とのかかわり方

～特別な支援を必要とする児童の理解とその対応～

「発達障害とは?」「気になる子支援の王道とは?」「保護者支援のステップは?」「放課後支援に期待することは?」等の観点で、お伝えします!



2017.7.3

気になる子が何故昔以上に気になるのか

「どうせ」「うざい」等が口癖の子どもたち



「人が人間で生きる機会」が失われつつある現代社会

かかわりを通して育まれる
自尊感情&ソーシャルスキルが育ちにくい子どもたち

- 自分にOKと言えなければ他者には尚更OKとは言えない。自分を大切にできなければ他者は尚更大切にできない
自尊感情(自己評価の感情)を育もう!
- 他者とかかわる技術・コツがなければ他者を大切にできない
ソーシャルスキルを育もう!

全ての子の自尊感情&ソーシャルスキル育成が今、最も必要!

自尊感情を育むワザ

- 名前を呼ぶ
- 子どもの「長所」や「好き・得意なこと」等を使い、褒める・勇気づける・認める

アマチュアとは違う、私たち「教育・保育のプロ」の力とは?

大好きだったなあ、「ハングル少年」のA君

関係づくりの第一歩は相手への関心から



遊びを使ってソーシャルスキル育成;ジャンケン手の甲タッチ

子どもにとっては遊び。でも、私は遊んでいない



遊びは、「引き算」ではなく「足し算」をする

独りで楽しめる携帯ゲームは「人とかかわる技術・コツ」が身に付きにくい。「携帯ゲームの禁止・取り上げ(引き算)」は難しい。「かかわりを楽しめる遊びを教える(足し算)」ことも、大人の役目では?

(軽度)発達障害の子どもたち

LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害のある子どもたちが小・中学校の通常学級には %在籍する(2012年、文部科学省)

どういう子ども?

知的遅れがない
IQ 以上

「軽度」と言われる所以

特異な困難を示す



56

気になる子の数値推移

学年進行に伴い、

園・学校がすべきことは?

発達障害とは；特徴及び主な障害

- 先天的
 - 症状が発達期(乳幼児期に多い)に出現
 - 生涯に渡る
- 基本的には、脳の機能的な問題が原因とされる

精神遅滞；認知の側面

脳性麻痺、筋ジストロフィーなど；運動の側面

発達性協調運動障害；手先の細かな動きの側面

LD、ADHD、高機能PDD

いわゆる軽度発達障害

通常学級で彼ら自身「困っている子どもたち」

発達障害者支援法 (2005年4月施行)

支援法における発達障害定義

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害をいう。

これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し、国、地方公共団体の支援責務を明らかにした。また、学校教育における支援、福祉増進を目的とするため、対象はやや狭義になっている。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法 2013.6月成立)

- 差別的取扱いの禁止 (法定義務)
- 合理的配慮不提供の禁止 (国・地方公共団体等は法定義務)

基礎的環境整備のもとに

2016.4月施行

特に、学校生活の様々な場面における「合理的配慮」に関する校内整備が必要。保護者の声に応えるために...

発達障害児の支援を 考える際の「二つの声」；障害理解

うまく指導してもらえなくてもいい。
でも、子どものことは理解してほしい
(ある保護者の声)

教育を行う者が、教育を行う子どもについて
無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼
極まりない(2003.杉山)

自閉症者の自伝がそのヒントになる

テンブル・グランディン、ドナ・ウィリアムズ

保護者との関係づくり 「王道」ステップ

- First step; 鑑を尊重する
↳ 保護者の価値観等
- Second step; 手柄は保護者に返す
↳ 子どもの変化等

「洋服」の第1ボタンをはめれば、
次のボタンはスムーズにはめることができます

元気をなくしている保護者に使いたい！ サバイバル・クエスチョン

今まで大変なことばかりでした
もう何をしてもダメです

大変な中で、よく頑張ってきましたね
支えになったことは何ですか？

保護者との関係づくり 失敗から学んだこと

□時には「漂う」

「助言」して失敗ばかり。だから時には

□「でも」に注意

「でも」の次に来る「正論」が早すぎて

□外部機関の力を借りる

外部機関の声が響きやすいことも

まず、医療ではなく、教育の場(教育センター等)につなぐ

何故、障害理解が大切なのか

～ある少年事件から～

□少年は、精神鑑定で「**広汎性発達障害**」を指摘されている。

現在は、「自閉症スペクトラム障害」

□広汎性発達障害の人は、言葉の意味をそのまま受け取ってしまうことがある(字義性)。少年は父親から、「もう一回嘘をついたら殺す」と言われていた。テストの得点で嘘をつき、本当にばれたら殺されると思ってしまった。

障害が問題や事件を起こすのではない、周囲の理解・対応の不十分さが、問題や事件の呼び水になりやすい。

LD (学習障害)

DSM-では「限局性学習障害」
(Specific Learning Disorder)



聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、の中で、特異な困難がある <教育的LD> disabilities = 困難さ

言語性LD; 言語理解、表出、読み、書きの困難
非言語性LD; 空間、身体像、社会的知覚の困難

チェックポイント-スキップ、フォークダンス、縄跳びの困難

読み・書き・計算の障害 <医学的LD> disorders = 機能不全

ディスレクシア

15

LDへの基本支援

例: 読みの困難がある場合

- ・教科書を120%に拡大する
- ・文章の文節ごとに区切りをつける
- ・本人に文節ごとに で囲ませる

ゆっくり、正しく読めるようになった

教科支援の基本、該当学年より2～3学年下げた内容を!

LDの困難別支援例

～聞く・話す～

聞くこと

- 指示は具体的な言葉で、短く、はっきりと
- 楽しめるゲーム(ビンゴゲーム等)を活用し、聞き取る習慣づけをする

話すこと

- 「はじめに」「次に」「最後に」等、話し方のパターンを練習させる
- 実物、写真、絵等を用いて話を進めさせる
- 時間、順序に従い、カードに書いて話す練習をさせる

LDの困難別支援例

～読む・書く～

読むこと

- 文を短く切り、文字を指で押さえながら読ませる
- 読む部分だけを見せたり、ラインを引かせたりして強調する
- 子供の読みに合わせて追読等して読ませる

書くこと

- 板書と同じものを用意し、手元に置かせて書かせる
- ワープロ等を活用し、書くことの負担を軽減する
- 文のモデルを示し、それを参考にしながら書かせる

LDの困難別支援例

～計算する・推論する～

計算すること

- 計算の仕方を言葉で言わせながら、計算させる
- 赤ペンで繰上がり、繰り下がりを書き込み、確認させる
- パソコンを使った九九ゲーム等で数に興味をもたせる

推論すること

- 問題文を図や絵で表したり、自分の言葉で説明させたりする
- 複雑な問題文は短く簡単な文章にしたり、考えやすいように内容を整理したりして示す

ADHD

DSM-では「注意欠陥・多動性障害」
(Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)

(注意欠陥・多動性障害)

「不注意」、「多動性」、「衝動性」の三つの問題が見られるセルフコントロールの発達障害

前頭葉の活動が不活発
(ドーパミンなどの神経伝達物質の量、働き!?)

実行機能障害、ワーキングメモリーの障害とも言われる

教室で、特に気になる子ども

活性化作用のある刺激剤
メチルフェニデート

リタリン **コンサータ**(日本初の治療薬)

ADHDへの基本支援

脳の実行機能に弱さがあるため、自らの動機付けが困難故に、報酬(ご褒美)で行動をコントロールすることが基本

改善目標を一つ決め、達成したらシールやスタンプの報酬等

「パソコン」というリソースで別人のように変わったA児

主な配慮事項

- ・注意や叱責の何倍もの賞讃を
- ・できていること、できそうなことを賞讃する
- ・賞讃、叱責は直後に明確に
- ・指示は必ず復唱させる
- ・クールダウンの場を設ける 等

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)

2領域(社会的コミュニケーションの制限、反復性の行動・興味)における軽度(L1)～重度(L3)の能力低下という連続体を示す障害
(DSM- 日本語版 2014年5月発刊)

PDD(広汎性発達障害)
*社会性、コミュニケーション、想像力の弱さ

- ・自閉性障害(*この中で知的な遅れを伴わない者が「高機能自閉症」)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・アスペルガー障害
- ・特定不能PDD(*非定型自閉症と同義)

DSM-ではPDDの診断名

ASDへの支援のワザ

必ず歩きたい支援の「王道」

- 視覚情報の活用 フォトグラフィックメモリー
- 一度にひとつ 短期記憶の弱さ
- 予定の伝達 見通しのもちにくさ
- 肯定的表現 苦手な禁止、注意
- 文化に寄り添う

感覚の過敏性
(例)触覚、聴覚、視覚、嗅覚、味覚等

字義性
(例)真っ直ぐ家に帰るのよ あそこの角を曲がらないと帰れないよ～

拙著「気になる子への支援のワザ」(教育開発研究所)に事例がたっぷり

地域教育力低下の最大要因は

私事化(森田, 1991)
人間関係、組織に対し、適度な距離を置きつつ自分の私的領域を確保しようとする動き

- つまり、「他人の関与を歓迎しない風潮」が地域に蔓延している。

放課後支援は「風潮」の打破につながる一策

教師や友人と向き合おうと しない子どもの心理も



声 ボクの心の中にいない人に
「向き合わない・大事にしない」のは当然でしょ！
どうでもいい人たちなんだから

- 大切に思う人の範囲が狭い(杉森, 2009)
- ・心の中は「自分」がいっぱい。「他者」はわずか
- ・心の中に「自分」もわずか

25

大切な人を心の中に 「住ませる」

- さまざまなかわり体験を通して、大切な人が
たくさん心の中に住むようになる

↑
そうすることで、「恥知らず」「人でなし」な言動を
押さえることができるのではないかな

子どもたちの心の中に一人でも多くの人が「住む」
ために、学校も「放課後子ども教室」もできることは
たっぷり！ 何故なら、そこに集団があるから



26

事例集；「一人一人が輝くために」 ～秋田県教育委員会発行(2005)～



参考になる事例が
たっぷりあります！



27

おわりに ～私の「POCKET」から～

- 子どもに要求することは全てしてみせる
- 正しいことを言うときは少しひかえめに言う(吉野)
- 今、見ている景色も楽しむ

また、お会いしましょう！



28

資料

- 「時々、“オニの心”が出る子どもに
アプローチ2 気になる子に伝わる
言葉の“番付表”」, 曾山和彦、明治図書

以下のHPには資料がたっぷり！
メールも届きます！ ご活用ください！



HP；「KAZU・和・POCKET」

29